

令和元年度 2学期終業式

英知をもった実践力のある賢い人になろう

札幌市立東月寒中学校 校長 工藤 伸哉

今年は全国でそして札幌も、穏やかで温かい冬を迎えています。おかげで昨夜は、サンタもトナカイも交通事故や渋滞に巻き込まれず、そりがよく滑ったかという問題はあったにせよ、各家庭にプレゼントを順調に届けることができたのではないのでしょうか。

さて、学校で83日間を過ごした2学期が今日で終わりです。この間、皆さんは、日々の授業はもちろん、学校祭、生徒会認証式、合唱コンクールなどの行事、期末テストや学力テストなど、次から次へとさまざまな事に挑戦した学期でもありました。。自分はやりきった、頑張った、学級のために貢献できた等、充実して過ごすことができたでしょうか。この2学期で自分が一生懸命にできたことが一つでもあったという感想をもっていただくとありがたいです。

私にとってもこの2学期は、皆さんの声援が円山にこだまし、若さが弾けた陸上競技大会、すばらしい歌声を響かせた合唱コンクールは、特に忘れられない思い出となりました。この他にも、40周年記念式典の素晴らしいスライド、交通安全街頭啓発、モーグルの伊藤みきさんやフリーアナウンサーの佐藤麻美さんの講演会、また、地域の街頭啓発運動、年賀状ボランティアや募金活動に取り組んだことに感謝し、賛辞を送りたいと思います。とくに、年賀状ボランティアでは先日、生徒会の皆さんと贈呈式に出席し、地域の皆様からたいへん楽しみしており、感謝していますとのお声をいただいております。年賀状ボランティアに協力した皆さん、ありがとうございます。また、部活動では3年生の抜けた後、新チームで活動が始まりましたが、中体連新人戦で活躍する部があるなど、来年の中体連本番に向けても大いに期待したいと思います。

ところで、この2学期、日本全国に目を転じると前代未聞の強力な台風が次々と直撃、強風や河川の氾濫で壊滅的な被害に遭った地域が多くあります。今日、かなり精度の高い天気予報で注意が呼びかけられているにも関わらず、被害の深刻さは毎年増しているのではないのでしょうか。このような風水害がなぜ増えているのか、それは、温暖化をもたらす二酸化炭素の発生量が増えていることが原因であり、このままだと今世紀末、世界の気温上昇は3度を超えてしまうという説があります。昨年、北海道は大きな地震に襲われ、苫東厚真の火力発電所が停止して、北海道全体がブラックアウトという非常事態に陥りました。電気の大切さを身にしみて感じました。そこで石狩湾新港にも火力発電所を増やして、電気を作るために石炭を燃やし、結果として二酸化炭素を増やしているのが、今の北海道の姿です。今、世界中の人が地球温暖化を心配し、大きな会議が開かれ、若い人たちも温暖化防止のためにいろいろな立場から意見を述べ、生活スタイルを変え、行動していることを皆さんは知っていますか。

長い2学期、毎時間学校では、授業があり、さぞ大変であったと思います。だからといって、授業を漫然と受けてはほくはありません。また、受験のために点数をとるためだけに皆さんは勉強をしているわけではありません。点数をとるためだけであつたら、大学生までで勉強の意味はなくなってしまいます。

学校で学ぶ意味、それは、皆さんが日々学び、視野を広げ賢くなり他者のために尽くす大人になるためです。賢いということは、単に知識を身に付けばよいのではなく、知識を身に付けながら、物事をしっかり考え、自分の意見をもって話し合う力を身に付けることであると私は思います。

考える力をもとに獲得した賢さをもって、先ほど述べた地球規模での深刻な温暖化の問題や現代の社会が抱える様々な諸問題を解決する人になってほしいのです。コンピュータに関するIT産業がそうであるように、世の中を変革するような新しい動きは、今も昔も若い人が中心になって変わっていくのではないのでしょうか。是非、日々の授業を大切にしてお考えを深めること、知識を身に付けて世の中の動きに敏感になり、思慮深く、「英知をもった実践力のある賢い人」になってほしいと思います。

最後になりますが、道路は、日没が早いので暗く、またたいへん滑ります。事故なく、病気やけがをせず、トラブルに巻き込まれることなく、令和二年の良き新年を迎え、3学期始業式には、全員が元気に顔を合わせることを約束して、2学期終業式の話といたします。